

# 兵庫NIEニュース

第65号

発行 兵庫県NIE推進協議会

〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社内  
TEL (078)362-7054 FAX (078)362-7424E-mail hyogo-nie@kobe-np.co.jp HP <http://www8.kobe-np.co.jp/nie/hyogo/>

まわしよみ新聞」オンラインver



実践報告する姫路市立豊富小中学校の川村教諭（Zoom画面から）

川村かおり教諭と井上佳尚教諭は、防災や平和学習の調べ学習に新聞を活用したり、グループで気になる記事を選び、新聞を作る「まわしよみ新聞」をオンラインで行ったりする取り組みを披露。「日常的に新聞を使う」「作ることで、気づきを得ている」と話した。

姫路市立豊富小中学校の川村かおり教諭と井上佳尚教諭は、防災や平和学習の調べ学習に新聞を活用したり、グループで気になる記事を選び、新聞を作る「まわしよみ新聞」をオンラインで行ったりする取り組みを披露。「日常的に新聞を使う」「作ることで、気づきを得ている」と話した。

## 2020年度兵庫県NIE実践発表会

兵庫県のNIE実践発表会が2月6日、初めてオンラインで開かれ、85人が参加した。発表会は、新聞・通信社や教育関係者でつくる兵庫県NIE推進協議会が毎年度末に開催しており、今回はテレビ会議アプリ「Zoom（ズーム）」を利用して行った。NIE実践指定校3校が新聞を使った取り組みと意義を報告。

Zoomの「反応」ボタンを使って参加者に賛否を寄せてもらった学校もあった。県外からは9人が参加した。今後もオンラインならではの環境を活用し、コロナ禍を逆手に取って、兵庫県の枠を越えた連携にも取り組んでいきたい。

# コロナ禍の新聞活用模索

## オンラインで回し読み、読み比べ

## 県内代表3校が活動報告

明。「多面的な情報に基づき対話を重ねることで、生徒たちの人間関係が向上す」と強調した。

（兵庫県NIE推進協議会事務局長）

兵庫県NIE推進協議会が2021年度のNIE実践指定校（全20校のうち新規校10校）を募集しましたところ、多くの学校から応募があり、2月13日をもって締め切らせていただきました。ありがとうございました。

## NIE実践指定校 募集を終了 2021年度

同推進協議会事務局では、NIEについての校内研修や新聞を活用した授業などに講師を派遣しています。

事務局 078-362-7054までお問い合わせください。

## ◀ 参加者の感想 ◀

西上三鶴・兵庫県教育長



発表された先生方、本当に苦労されました。日頃の学習活動の中で、新聞という素材をさまざまな工夫をして活用されているなあ、と素直に感じました。加えて、新型コロナの中で、大変だったと思います。これからも頑張っていただきたい。

発表内容に個々の感想ではなく、全体として受けたことを申し上げます。

まず、あらためて新聞の素晴らしさでした。

教科書の内容は児童生徒の発達段階で異なるのに、新聞の内容は一つです。そして、児童生徒を主な対象として制作されている訳でもありません。なのに、小中高それぞれに応じて活用できる直接記事を使うだけでなく、ICTの活用で新聞を作つてみるといいこともできる、本当に素晴らしい素材であることです。

発表で残念だったことは、新聞という素材だからできる

こと、できたことという点の強調が少し弱かったかなと思いました。

2点目は、これからの懸念です。

教科書もノートも今は紙です。新聞も紙です。親和性がある。

しかしながら、これからは違ってきます。21年度からデジタル教科書が小学校に試行的に導入されます。1人1台パソコンで、ノートも紙ではありません。これなくなるでしょう。

一方、情報の手段もデジタルが主流になっています。学校でのNIEの活動でも、紙の新聞記事をパソコンに取り込んで活用する場面があります。

こうした流れの中で、紙の新聞はどうなるのだろうか。いざにしても、これからもNIEの活動を期待しています。

## NIE実践発表会

## ◀ 講評 ◀

## 兵庫から3個人と3校受賞

早瀬幸一・兵庫県教委義務教育課主任指導主事兼主幹

どの学校も素晴らしい実践であり、共通していたのが「自

分事」と「つながり」だったと思う。

姫路市立豊富小中学校の実

践は、新聞を取り入れながら「つくる」と「つかう」

の双方から取り組むこと

で、目的意識をもちながら新

聞を見たり作ったりすること

ができていた。

兵庫教育大学附属中学校

は、「本物」との出会いと、

事前指導（新聞の読み比べ）

を効果的に組み合わせること

で、社会の出来事を自分事として見ることができた。

モラルジレンマをテーマに取り組んだ神戸市立神港橋高校は、社会的事象を判断する

活動を通して、さまざまな価値観と照らし合わせながら、

多角的に社会を見つめるきっ

かけになっていた。

いずれも「新聞」というツー

ルを効果的に活用することで、「社会」と「自分」をつなげ、

主体的な学びにつながる実践

であった。

【奨励賞】阪本愛子（西

宮市立浜脇中1年）II朝日新聞7月24日付朝刊「自ら依頼の難病患者を殺害」を

回「いつしょに読もう！」

「バチが当たる」

日付朝刊「野々山桃花（御影

乃花さんら3人を選んだと

高1年）II読売新聞8月13日付朝刊「バチが当たる」

読んで▽野々山桃花（御影

高1年）II読売新聞8月13日付朝刊「バチが当たる」

新聞コンクールの最優秀賞に、愛知県大口町立大口

西小5年（当時）、伊藤穂ながら「つくる」と「つかう」

の「つくる」と「つかう」

で、「本物」との出会いと、

事前指導（新聞の読み比べ）

を効果的に組み合わせること

## 生きて働く学力を養成

## 社会と自分つなげるツール

後藤英樹・神戸市教委学校教育課指導主事（当時）

「違い」を意識させ、歴史の振り返りは、「過去から続く今、今が未来を創る」を実感させており、思考が広がっています。

神戸市立神港橋高校の取り組みの素晴らしさは、よりよい社会の担い手を育成するという学校の教育方針のもとNIE活動も行われている

日本新聞協会は第12回「いつしょに読もう！新聞コンクール」の作品を募集している。興味を持った新聞記事を家族や友人と読み、感想や意見を専用の応募紙に書き、あわせて記載用紙に書き、あわせて記

事の切り抜きも送る。

対象は小・中・高・高専

兵庫県内の受け付けは、〒650-85271 神戸新聞社内、兵庫県NIE推進協議会「いつしょに読もう！」新聞コンクール係。9月8日必着。問い合わせは同協議会☎078-362-7054

感想は、兵庫県NIE推進協議会サイトにある「セミナーに掲載表会・公開授業」コーナーに掲載されています。ぜひお読みください。

兵庫教育大学附属中学校の取り組みの素晴らしさは、児童生徒の思考が空間的・時間的に広がっていく点。社説の読み比べは「立場や地域の

生きて働く学力の養成」だと感じた。

日本新聞協会は2020年12月14日、家族や友人と一緒に「いつしょに読もう！」新聞コンクールを開催。富士市立浜脇中1年）II朝日新聞7月24日付朝刊「自ら依頼の難病患者を殺害」を題材に、話題をめぐらす感想文が対象の第11回「いつしょに読もう！」

西小5年（当時）、伊藤穂ながら「つくる」と「つかう」

の「つくる」と「つかう」

で、「本物」との出会いと、

事前指導（新聞の読み比べ）

を効果的に組み合わせること

で、社会の出来事を自分事として見ることができた。

モラルジレンマをテーマに取り組んだ神戸市立神港橋高校は、社会的事象を判断する

活動を通して、さまざまな価値観と照らし合わせながら、

多角的に社会を見つめるきっ

かけになっていた。

いずれも「新聞」というツー

ルを効果的に活用することで、「社会」と「自分」をつなげ、

主体的な学びにつながる実践

であった。

兵庫県内からは1498点の応募があり、個人の奨励賞に3名が選ばれた。県内の入賞は次の通り。（敬称略）

高・高専生から計5万7名（当時）、伊藤穂ながら「つくる」と「つかう」

の「つくる」と「つかう」

で、「本物」との出会いと、

事前指導（新聞の読み比べ）

を効果的に組み合わせること

で、社会の出来事を自分事として見ることができた。

モラルジレンマをテーマに取り組んだ神戸市立神港橋高校は、社会的事象を判断する

活動を通して、さまざまな価値観と照らし合わせながら、

多角的に社会を見つめるきっ

かけになっていた。

いずれも「新聞」というツー

ルを効果的に活用することで、「社会」と「自分」をつなげ、

主体的な学びにつながる実践

であった。

## 「三大ニュース」選び討論

■高校2年生約20人参加

もに発表した。

NIE活動の一環で、学習支援アプリ「ロイロノート・スクール」を活用し、関心のある新聞記事を選ぶ公開授業が2020年11月24日、神戸市垂水区歌敷山3の愛徳学園中学・高校で開かれた。高校2年生（当時）約20人が「三大ニュース」選び、自分の考え方と

興味のある記事について発表する生徒たち＝神戸市垂水区歌敷山3

兵庫県NIE推進協議会の主催。同校は20年度から日本新聞協会のNIE実践校に指定された。

生徒たちは最近の記事からコロナ禍や児童虐待、世界人口の減少など、興味のある記事を「ロイロノート・スクール」で整理。シンキングツールで重要度や関心度を分析し、順位を付けて4人ごとのグループで発表し合った。

臼杵梨々菜さんは、書籍の電子化などを取り上げ「情報やデジタル関係に興味がある。授業をきっかけに新聞を読み始め、社会問題を考えるようになった」、西村友希さんは「記事の分類・整理を通して自分の考えを整理でき、自分の新しい点も発見できた。他者の発表に対して意見を述べ、さらに意見を考えていくのは楽しく、社會論議に出でからも役立つ」と話した。

公開授業は教育関係者ら約30人が参加した。新型コロナウイルス対策としてテレビ会議アプリ「Zoom（ズーム）」でも公開し、県外から4人が参加した。

## 公開授業特集

◆愛徳学園中・高校、姫路市立豊富小中学校とも、公開授業を担当した先生の寄稿や、生徒のみなさんの感想、参加者のみなさんの感想は、兵庫県NIE推進協議会サイト内にある「セミナー・発表会・公開授業」コーナーに掲載しています。ご一読ください。

## オンライン新聞読み比べ

■7年生（中学1年生）29人参加

NIE活動の一環で、複数の新聞を読み比べ、書き方の違いをまとめる公開授業が1月26日、姫路市豊富町御蔭の豊富小中学校で開かれた。中学1年にあたる7年生（当時）29人が数人の班に分かれ、気になる記事3本について意見を交わした。

兵庫県NIE推進協議会主催。同校は小中一貫になる前の2011

新聞記事を読み比べ、気づいた違いをパソコンに打ち込む生徒たち＝姫路市豊富町御蔭

9年度から日本新聞協会のNIE実践校に指定されている。新型コロナウイルス対策のため初めて全面的にテレビ会議アプリ「Zoom（ズーム）」で公開した。

生徒たちは口頭での議論に替え、それぞれがパソコンの学習支援アプリを活用、「Jambopard（ジャムボード）」のデジタルホワイトボードに意見を書き込んで共有した。授業の前に、班ごとに同日付の全国紙2紙と地方紙1紙が配られており、事前に選んだ同じニュースの記事について表現を比較した。

生徒間の会話がまったくない授業は刺激的だった。ただ、Zoomでの参加者は戸惑いもみられた。授業はビデオカメラ2台で教室全体と生徒の手元を写し、参加者のチャットによる質問・要望にも対応したが、「分かりづらかった」との意見も。個人情報を配慮しながら、生徒たちの共有画面をどう公開するかも課題だろ



2020年度のNIE実践指定校への記者派遣事業は、予定した21校24回すべてを無事終えることができた。コロナの影響で窮屈になつた授業日程の中で記者あかり記者とNIE推進部の三好正文シニアアドバイザーが、阪神・淡路大震災をテーマに全校生279人に講演した。

26年前、震災の年に生まれた名倉記者と、震災当日、宿直明け勤務で壊滅的な街を取りました。三好アドバイザーが「伝える意義」を強調。生徒3人と幼児の頃に震災に遭った教諭も参加したパ

## 【兵庫教育大学 附属中学校】

ネル討論では、記録する大切さにつれて話し合われた。

神戸新聞が被災地を定点観測して撮影した写真パネルも展示。1年生、3年生はオンラインで視聴した。

(1月18日)  
▼生徒の感想 宮下雄次さん(2年)「震災で犠牲になった多くの方がいる。私たちには震災の教訓を生き残す使命があると強く思つた」、森美紘さん(2年)「犠牲者の人生を伝えるため、遺族の言葉を引き出すことが大切だと思った」



る」と話した。「取材に何か」などの質問もあつた。

新型コロナ感染防止のため、代表の生徒9人の前で話す様子を撮影し、その他生徒は各教室のモニター画面を通じて同時視聴した。

過去に取材した東日本大震災や社会問題の記事を基に、取材方法や原稿の書き方を紹介した。生徒からの質問にも回答。「記者をして楽しいことは」の問い合わせには、「いろいろな人から貴重な話を聞かせてもらえた

【西宮市立浜脇中学校】

毎日新聞阪神支局の稻田佳代記者が「新聞記事ができるまで」をテーマに、全校生約690人に授業を行つた。



## 【神戸市立 六甲アイランド小学校】

の状況や、拡大防止策などを詳しく取材している」と

1月17日で発生から26年を迎えた阪神・淡路大震災の報道では、現場写真を見

せながら「災害の記録」を次代に伝える意義を強調した。授業の後は質疑応答も

あった。(1月21日)  
▼児童の感想 越智翼介君「取材を工夫して多くの記事を生み出す話に興味を持った」武田春香さん「小さな記事にも大切な情報が詰まっている新聞に興味を持った」

新型コロナウイルス感染症の報道については「読者に安心情報を届けるため、クラスター(感染者集団)

ると感じ、裁判記録や現場取材を続けた」と話した。

「なぜ報じるのか、自分の言葉で説明できるようになることが大切」と強調した。生徒との質疑応答もあった。(2月3日)

▼生徒の感想 新沼萌々さん(2年)「一つの記事のため多くの時間や労力がかかりっていると知った。女性はかわいいそうと感じた」、東原花乃音さん(2年)「裁判や周辺取材をどうまとめたか興味を持った。記者の話を初めて聞き、今後の学習に役立てたいと思った」

【愛徳学園中・高校】

毎日新聞神戸支局の韓2勧記者が中学3年～高校2年93人に講演。22歳の女性が90歳の祖母を介護疲れの末に殺害した事件の取材について語った。



## 【神戸市立六甲アイランド小学校教頭(当時) 酒井秀幸】

を受け入れ、感染防止対策を徹底していただいた各校に、感謝の気持ちでいっぱいだ。授業を行つた記者の中にはこの春異動した人もいる。児童・生徒のみなさんが一期一会の出会いの中で、新聞の意義や魅力を感じ取ってくれていたらとてもうれしい。63～64号のNIEニュースに続いて、今年1月18日～3月19日に行つた7校8回の授業を紹介する。

(児童生徒の学年は当時)

学びに向かう力育成への第一歩

神戸新聞報道部の太中麻美記者が「新聞のつくれられかた」をテーマに5年生の児童53人に授業を行つた。事件・事故や行政ニュース、動物園や学校の話題など、さまざまな出来事を取材する記者の仕事について紹介した。

新型コロナウイルス感染症の報道については「読者に安心情報を届けるため、クラスター(感染者集団)

美記者が「新聞のつくれられかた」をテーマに5年生の児童53人に授業を行つた。記者が「新聞のつくれられかた」をテーマに5年生の児童53人に授業を行つた。

新規作成は記者の取材から始まるとき、取材で使うカメラなど道具の説明や使い方、取材上心掛けていることなどを説明。取材道具を目の前にして、子どもたちには新聞記者の仕事に関心を寄せていた。阪神・淡路大震災当時の様子も聞き、當時を知らない子どもたちは、被災地での取材活動の話に興味津々だった。

5年生の社会科単元「情報とわたしたちのくらし」の学習時期に合わせての記者派遣事業だったこともあり、活発な質問があった。

記者派遣といつた取り組みも含め、2年間のNIE実践指定を受けたことで、子どもたちの読解力の向上や社会事象への興味関心の広がりはもちろん、学びに向かう力の育成へ、第一歩が踏み出せたことをうれしく思っている。

## 【姫路市立豊富小中学校】

神戸新聞NIE推進部の三好正文シニアアドバイザーマが阪神・淡路大震災をテーマに、テレビ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を活用したオンライン授業を行った。7年生(中学1年)、8年生(同2年) 176人が参加した。

震災の日、神戸・三宮の本社で宿直勤務だった。当 日書いた記事や当時の様子を紹介し「様相の異なる一

つ一つの災害から学び伝え  
ることが新聞の役割」と話



## 【県立多可高校】

聞の情報量は文庫本1冊に匹敵するなどと挙げた。

産経新聞神戸総局姫路駐在の小林宏之記者が1年生75人に講義し、「新聞に向けて」と題し、新聞の魅力や取り巻く状況を説明した。

「ネットの普及で新聞の在り方が激変した」と説明した。一方で新聞の特長として、責任の所在が明らかに見出しの大小や記事の掲載位置で各ユースの価値が一目で分かる。一つの新



## 【一般記事だけでなく首相の動向や人生相談、小説などが掲載されている】と話し、関心を持つように勧めた。

(3月19日)  
▼生徒の感想 笹倉勝さん

「記者の仕事を知ることができた。X-JAPANのボーカルToshiさんら有名人に話が聞けてすごい」、藤本菜月さん「スマホで情報収集していたが、より詳しく情報が分かる新聞も読みたい」

## 【県立津名高校】

ネを報じるのも「紙もデジタルも」の時代になった

取材先の自宅を繰り返し訪れる「夜討ち朝駆け」で信頼関係を築いて情報を得るなど、発表に頼らない取材方法にも触れた。

(3月15日)  
▼生徒の感想 岩井祐樹さん(2年)

「張り込みをする取材方法など、初めて知ることがあった。新聞をもっと読みたい」、中村七星さん(2年)「興味のある記事を読めるデジタル版の良さも分かった」

感想を「できるだけ多く」「原文そのままで」「可能なら筆跡もそのまま」紹介しようと企画したコーナー。匿名を原則とし、大人数の「生の声」をアップすることを目指した。

「新聞への関心が高まった」「多くの人の手を経て、記事の正確性が高まっているのを知った」「新聞社・通信社の仕事がよく分かった」などさまざまな感想が寄せられ、授業を行った記者も励まされている。

## 【姫路市立豊富小中学校】

ワードに貼り付け、童が選んだ記事についての記事を選んだ理由や他の児童が選んだ記事についての感想も書き込んだ。



記者派遣事業に1300人超から感想  
兵庫県NIE推進協議会事務局長 三好正文  
兵庫県NIE推進協議会 会員サイトに立ち上げた「わたしの感想NIE」コーナーに、記者派遣事業を受講したNIE実践指定校の児童・生徒の感想が多数寄せられ、アップ数は1300人を超えた。

感想を「できるだけ多く」「原文そのままで」「可能なら筆跡もそのまま」紹介しようと企画したコーナー。匿名を原則とし、大人数の「生の声」をアップすることを目指した。

「新聞への関心が高まつた」「多くの人の手を経て、記事の正確性が高まっているのを知った」「新聞社・通信社の仕事がよく分かった」などさまざまな感想が寄せられ、授業を行った記者も励まされている。

教育関係者向けのNIE公開授業での児童・生徒の感想も届いている。21年度も各校の協力で多くの感想を掲載し、授業の質向上に生かしたい。

感染防止対策に  
オンライン威力  
コロナ禍の中、2020  
年度の記者派遣事業が全校

で無事終了したのは、感染  
防止のため6校でオンライン  
を活用していただいたこと  
とも大きい。

校で計4回行った。密を避  
けるため対面に加え、各教  
室とオンラインでつないで  
他学年の生徒らが同時視聴  
したのが3校。残る1校は、

全面オンライン授業は2  
週間で終了した。

神戸新聞NIE推進部の三好正文シニアアドバイザーマが阪神・淡路大震災をテーマに、テレビ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を活用したオンライン授業を行った。7年生(中学1年)、8年生(同2年) 176人が参加した。

震災の日、神戸・三宮の本社で宿直勤務だった。当 日書いた記事や当時の様子を紹介し「様相の異なる一



つ一つの災害から学び伝え  
ることが新聞の役割」と話  
した。コロナ対策を踏まえ  
た避難所運営も説明した。  
生徒たちは、神戸新聞が  
同震災の被災地を定点観測  
した写真パネルを見て授業  
に臨んだ。質疑応答もあつた。  
(2月5日)  
6年生88人がそれぞれ別の  
クラスの児童と3人一組に  
なり、パソコン上で意見交  
換し紙面を作った。

企画。過去1年分の神戸新聞「写真ニュース」から各  
校NIE研究チームが  
自分が選んだ記事を学習支援  
アプリで共有。デジタルホ



西尾啓介君「プロ野球や政治のニュースなど、それぞれが違う視点で記事を選んでいたのが面白かった」

兵庫県NIE推進協議会会員サイトに立ち上げた「わたしの感想NIE」コーナーに、記者派遣事業を受講したNIE実践指定校の児童・生徒の感想が多数寄せられ、アップ数は1300人を超えた。

感防対策に  
オンライン威力  
コロナ禍の中、2020  
年度の記者派遣事業が全校

で無事終了したのは、感染  
防止のため6校でオンライン  
を活用していただいたこと  
とも大きい。

校で計4回行った。密を避  
けるため対面に加え、各教  
室とオンラインでつないで  
他学年の生徒らが同時視聴  
したのが3校。残る1校は、

全面オンライン授業は2  
週間で終了した。

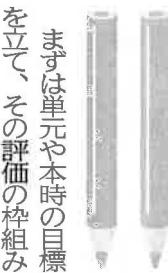
神戸新聞NIE推進部の三好正文シニアアドバイザーマが阪神・淡路大震災をテーマに、テレビ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を活用したオンライン授業を行った。7年生(中学1年)、8年生(同2年) 176人が参加した。

震災の日、神戸・三宮の本社で宿直勤務だった。当 日書いた記事や当時の様子を紹介し「様相の異なる一

## NIE春夏秋冬



NIEの推進にあたって、あらためて問つておきたいことがある。それは、何のためにNIEを行うかということだ。私は、新聞は大変有効な教材であると考えている。ただ、有効なだけに目標と手段を取り違えないことに常に注意を払う必要がある。新聞をどのように活用するかを先に考えると、目標と手段との間にずれが生じてしまうからだ。



## 「答えのない問い」と向き合う

■ 兵庫県NIE推進協議会特任アドバイザー ■

川西明峰高校校長(当時)

中川 透

兵庫県NIE実践発表会が、オンラインによって2月6日を開催された。その中で、兵庫教育大学附属中学校の発表の中に出てこられた、朝日新聞論説委員の高橋純子氏のことばが印象に残った。新聞記者は「読者が問い合わせられるよう記事を書く」ことを心がけているというのだ。これまで新聞記事をそういう風に見たことがなかったので新鮮だった。

われわれ教員にも同じことが言えよう。優れた教育者は、答えをすべて与えてしまわずに、児童・生徒へ「?」を抱かせ、自ら学ぼうという気を起さる。初日はノンフィクション作家の梯久美子さんが基調講演し、パネル討議もある。2日目は公開授業、特別分科会がある。問い合わせは大会実行委員会事務局(011・210・5507)などで開かれる。主管社は北海道新聞社で、その評価の枠組みを立て、その評価の枠組みを立て、その評価の枠組みを立て、その評価の枠組みを紹介す

8月16、17日 札幌で全国大会

テーマは「新しい学びを創るNIE」

る。

第26回NIE全国大会は8月16、17の両日、札幌市の札幌文化芸術劇場hitaru(ヒタル)をスローガンに、学校における

新聞活用の取り組みを紹介す

る。

神戸新聞報道部長 小山 優

### 避難所取材 今も胸に

初めて。1967年生まれ、出身は京都府宇治市。十円玉の刻印、平穎院鳳凰堂の近くで育ちました。神戸新聞社に入社し、神戸に来たのは91年ですから、既に30年となり、兵庫県で暮らした期間の方が長くなりました。

記者として、神戸、阪神、姫路で事件、事故や行政を担当してきました。地元紙の記者にとって、学校はネタの宝庫。若手のころは入学式に卒業式、運動会、文化祭、ユニークな課外授業や給食…と、数えきれないほど取材をさせていただきました。95年の阪神・淡路大震災後は避難所となった体育館で、被災した人たちの体験を取材したことは、今も胸に刻まれています。私にとって学校は記者の礎を育てくれた場です。

新聞に何が求められているのか。皆さまとの交流を通じ、この問い合わせに向き合いたいと思います。

毎日新聞神戸支局長 石川隆宣

### 4年ぶりの神戸勤務

4月1日付で着任しました。新潟県の豪雪地帯の出身です。阪神大震災が起きた年(1995年)の4月に新聞記者になりました。岡山や和歌山で20代を過ごし、その後は、主に大阪で事件や行政・地方自治などの取材を担当していました。

神戸支局は4年ぶり2回目の勤務になります。前回は、どんな原稿が読まれるのか、どうすれば読んでもらえるのかを考え、取材や報道に反映させるのが仕事でした。「ずっと机にはりついている」ので、新聞社では「デスク」とも呼ばれます。

今回は、兵庫の魅力をもっと直接確かめられるのでは、と楽しみにしています。

次代を担う子どもたちや教育に携わる先生方に、新聞の魅力を理解していただけるよう、努力するのも目標です。よろしくお願い申し上げます。

NIE推進協議会に新会員

兵庫県NIE推進協議会会員の新聞・通信社で今年3~4月、人事異動があり、神戸新聞報道部長が長沼隆之さんから小山優さんに、毎日新聞神戸支局長が脇田顕辞さんから石川隆宣さんに交代した。人となりを自己紹介で。